

第7章 環境教育の推進

1 環境教育（目標の項目）

目標：環境保全の重要性を認識し、自ら意欲的に行動し、活動の場を広げていけるよう、体系的な環境教育を推進します。

目標達成するための指標

環境教育推進計画の策定・計画の実施

持続可能な社会を構築していくためには、すべての人が様々な場所で環境保全に向けた実効性のある取組を実践することが必要であり、このためにはすべての人を対象とした環境教育の充実が不可欠であることから、平成15年に環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律（平成15年法律第130号）が制定されました。

自然的環境と歴史的環境に恵まれた本市では、環境に対する市民の意識が高く、幅広い分野で市民による自発的な環境保全活動が行われています。

今後は、地域の身近な環境に関する環境教育を推進するとともに、地球温暖化問題など地球環境を視野に入れた環境教育について充実を図るほか、省エネルギー・新エネルギー普及のための様々な情報の提供や啓発活動を行うことが求められます。

そこで本市では、**平成19年12月に「鎌倉市環境教育推進計画」を策定し、学校等へ環境に関する専門的な知識を有する環境教育アドバイザーを派遣するなど、環境に関する講習会を実施し環境教育の推進を図っています。**

（1）環境教育をする場、素材の整備

環境教育素材の作成

身近な環境問題について、写真や図などでわかりやすく説明した小冊子などを作成しています。「鎌倉メダカ」、「ビオトープ」、「鎌倉市環境保全行動指針」があります。また、地球温暖化対策普及啓発として小学校高学年・一般・事業者・滞在者の各主体向けに小冊子を作成しました。イベントなどで配布、環境政策課窓口に配架し、また、ホームページでも紹介しています。

<環境政策課>

写真 7-1 環境啓発冊子



生涯学習ガイドブック

毎年発行している「生涯学習ガイドブック」には、いつでも、どこでも、だれでも、気軽に、どんなことでも学べるように、講座・催し物、自主学習グループ・サークル、生涯学習指導者などの情報が掲載されています。また、この生涯学習ガイドブックでは、自然や環境の分野にかかわりのある講座・催し物・

<生涯学習課>

グループ等の情報についても紹介しています。

教育資料の刊行

<教育センター>

学校における副読本など、環境分野の教材の充実に努めています。小学校3・4年生社会科学習用副読本「かまくら」や中学校社会科学習用副読本「私たちの鎌倉」、中学校理科学習用副読本「鎌倉の自然」において、市の環境政策の概要や市内に生息する動植物・地質などについて紹介しています。また、環境教育研究会では平成13年3月に総合的な学習の時間などで活用できる「かまくら環境教育ハンドブック」を作成しました。現在、様々な場面で活用されています。

子ども酸性雨調査

<環境保全課>

子どもたちが調査を通じて大気環境の実態を学習し、大気保全の重要性を理解することを目的とし、市内の全小中学校を対象に酸性雨調査を平成9年度から毎年実施しています。平成20年度は、694人の児童・生徒の参加がありました。調査結果によると、酸性雨のpHはここ数年横ばいの状況が続いています。児童・生徒たちからは、「本当に酸性に近くて驚きました。」「日にちによってpHがだいぶ変わっていた。」「昨年度に比べてかなり中性に近くなったと思われます。」などの感想が寄せられました。



酸性雨調査結果を小冊子にまとめ、酸性雨調査に参加していただいた生徒へ配布するなど環境学習の資料として使用しています。

写真 7-2 酸性雨パンフレット

表 7-1 子ども酸性雨調査参加者数とpH平均値

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
参加者数(人)	973	1,235	1,132	1,000	995	694
pH全校平均値	5.1	5.6	5.2	5.4	5.3	5.3

(2) 啓発の推進、環境教育の実践

広報かまくら

<広報課>

市の情報提供媒体として、原則毎月2回発行している広報紙「広報かまくら」があります。平成20年度中の主な環境関連情報記事の掲載状況は、表7-2のとおりです。

表 7-2 主な環境関連情報の掲載状況

	ごみ	みどり	交通	調査結果	その他
掲載回数	11回	4回	5回	3回	8回

環境ニュース

<資源循環課>

省資源への取組を推進し、循環型社会の形成に向けて、3Rの推進や地球温暖化対策などの情報を掲載し、年6回偶数月に通常号を、また、年1回特集号を発行しています。

鎌倉ケーブルテレビ

< 広報課 >

鎌倉ケーブルテレビの「鎌倉市からのお知らせ」の中で、市の環境政策などの様々な取組について紹介しています。平成20年度は、環境関連情報の「トピックス」を5本放映しました。この鎌倉市からのお知らせの放映は、土曜日～金曜日を1サイクルとして1日4回、週28回です。

表 7-3 環境関連情報「トピックス」放映状況

平成20年7月26日～8月1日	おはよう花市
平成20年8月16日～8月22日	ボランティアによる海岸清掃
平成20年10月4日～10月10日	クリーンアップ鎌倉2008
平成21年2月21日～2月27日	大船小学校 桜のワークショップ(1)
平成21年3月21日～3月27日	大船小学校 桜のワークショップ(2)

かまくらFM

< 広報課 >

かまくらFMの「鎌倉市からのお知らせ」でも、市の環境政策などの様々な情報について放送しています。放送は月曜日～金曜日は1日6回、土・日曜日は1日2回です。

市ホームページ(<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/>)

< 広報課 >

インターネットを活用し、環境関連など様々な情報を発信しています。市の環境関連各課のページを通じた最新の環境情報の提供、従来、紙媒体で提供していた情報から電子情報への切り替えによる紙資源の節減などを通じて循環型社会の形成に役立っています。

また、環境政策課のページ(<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kankyo>)では、「鎌倉市の環境政策」、「かまくら環境白書」、「環境調査データ集」などのデータのほか、その時々々の環境トピックスも掲載しています。

なお、資源循環課のページ(<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/shigen/shigenjuncan.htm>)でも、「資源物とごみの分け方・出し方」、「環境ニュース」などを掲載し、循環型社会の形成に向けて情報を公開しています。

環境に関する図書館資料の充実

< 中央図書館 >

鎌倉市立図書館には、環境をテーマとした資料が2,289点(図書2,056点、雑誌197点、AV資料36点)(平成21年6月現在)あり、市民の環境学習を支援しています。

かまくら四季のみどころ・観光地図「鎌倉」

< 観光課 >

環境にやさしい観光を目指して、「かまくら四季のみどころ」や観光地図「鎌倉」に、ごみの持ち帰り、たばこの投げ捨て禁止などを掲載し、観光客などに対する啓発を行っています。

学校における環境教育の取組

< 教育指導課・環境政策課 >

身近な自然環境や生活環境等に興味を持ち、環境保全に対する認識を深めたり、行動力等を身につけたりするという、いわゆる「生きる力」の育成に視点を置きながら、地球環境の問題や、リサイクル、ごみ問題などをテーマにして、市内小・中学校において、総合的な学習の時間での環境教育・学習の充実を図っ

ています。また、私立学校、公立高等学校においても環境教育の推進を図っています。

表 7-4 公立小・中学校における環境教育の取組

学 校 名	内 容	学 年
第一小学校	ビオトープで活動しよう	全学年
	海とのふれあい	1～5年
	野山を歩こう	1～5年
	鎌倉の住みよい町づくりについて	6年
第二小学校	環境学習（ごみ問題・リサイクル）	1～6年
	酸性雨調査	4年
	地球環境問題	6年
御成小学校	生物の飼育	3年
	季節の野菜や草花の栽培について	全学年
稲村ヶ崎小学校	稲・ひょうたん・野菜の栽培	全学年
	生物の飼育	3年
	牛乳パックリサイクル、ごみの分別	全学年
七里ガ浜小学校	生物の飼育、稲・植物の栽培と収穫	1・2・3・5年
	海を調べよう 環境を考える	4・5年
	広町の自然と触れ合う	1～4年
腰越小学校	稲・野菜・花の栽培	全学年
	海に学ぶ（ワカメの種付け、サザエ幼貝等の放流）	1・5年
	海で自然と触れ合う	1年
	海の環境について考える	3年
	地球の環境を考える	4年
深沢小学校	稲・野菜・草花の栽培と収穫（谷戸の活動）	全学年
	環境学習（酸性雨について）	6年
	環境学習（ペットボトルのリサイクル）	4年
	生物の観察・飼育	3・4年
小坂小学校	稲作り体験	5年
	野菜の栽培・収穫	若竹級
	環境を考える（人と水と自然について）	3・4年
玉縄小学校	稲・野菜・花の栽培	全学年
	生き物の観察とふれあい	全学年
山崎小学校	地域の自然観察・調査	4・5・6年
	稲・野菜の栽培	全学年
	生物の飼育	3年
	谷戸の学習	全学年
西鎌倉小学校	稲・野菜・花の栽培	1・2・5年
	食について理解する活動	1・2年
	生物の飼育や観察	1・2・6年
	環境学習（地域探検活動）	3・4年
	学校の身の回りのできるエコ活動	全学年
今泉小学校	土作りや草花、野菜の栽培 稲の栽培	全学年
	生物の観察や育成	1～3年
	地域探索	2～5年

学 校 名	内 容	学 年
富士塚小学校	稲・野菜・花・へちま栽培	1・2・5年
	牛乳パックリサイクル活動	全学年
	環境学習（酸性雨、水の調査）	4年
	鎌倉の自然を調べる	全学年
関谷小学校	稲・野菜・草花の栽培	1～5年
	関谷川の調査	6年
	酸性雨調査	4年
大船小学校	稲・野菜・花の栽培 苗木作り	全学年
	環境学習（ごみ・上下水道について）	4年
植木小学校	稲・野菜の栽培	1・2・5・6年
	酸性雨調査	4年
	ごみの分別収集 牛乳パックリサイクル	全学年
第一中学校	環境学習（修学旅行で自然や環境保全の必要性について）	3年
	地域学習（自然や環境について）	1年
第二中学校	グリーンコースの整備	全学年
	身近な自然環境の保全活動	1・3年
	作物の栽培（畑づくり）	1年
御成中学校	自然体験プログラム（谷戸の草刈り、湿地復元作業）	1年
	さつまいも栽培、学校林の手入れ	1年
	環境学習（出前授業・鎌倉の自然環境）、南斜面の整備	2年
	自治体の環境への取組 海岸清掃	3年
腰越中学校	作物の栽培・収穫	1年
	環境をテーマとした調べ学習（地域を知る）	1年
深沢中学校	環境学習、環境新聞づくり	1年
	校地緑化活動 緑のボランティア	全学年
手広中学校	地域の環境を考えるテーマ学習	1年
	地域清掃活動、リサイクル活動	全学年
	学校緑化・緑のボランティア	全学年
大船中学校	「郷土」をテーマとする調査・体験活動	全学年
玉縄中学校	環境をテーマとした緑地保全、湿地保全の体験学習、リサイクル・リユース体験学習	1年
岩瀬中学校	地域の自然環境をテーマとした調べ学習	1・3年
	自然学習（里山の保全活動）	3年

私立学校における環境教育の取組

学 校 名	清泉女学院中学高等学校	代表者	校長 神保 勝朗
取組状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中1～高1の全生徒を対象に、野外学習（理科）を行い、校内（中1）、箱根（中2）、三浦（中3）、真鶴・箱根（高1）の冬地域の自然を観察し、自然保護についての意識を高めさせている。 ・ 中3の全生徒を対象に、グローブ（総合学習）の活動を行わせる。（NASAに気象データを定期的に送信） ・ 化学部（クラブ活動）が、定期的に柏尾川の水質調査を行っている。 			

学 校 名	鎌倉学園中学校高等学校	代表者	竹内 博之
取組状況 本校の中学では入学時にゴミの分別を生徒にしっかりと実施してもらうためにゴミ問題についてホームルームに時間を使って話をしています。また、理科や国語の時間に授業と関連づけて地球の温暖化、環境破壊といった内容の教育ビデオを見せることも行っています。体験学習としては1年生と2年生で6月の海開き前に材木座と由比ヶ浜の海岸清掃を実施しています。また、クラス単位で道徳教育も兼ねて北鎌倉から本校までの通学路の清掃を実施しています。生徒たちにいかに多くのゴミが捨てられているかを知ってもらうとともに、自分たちはゴミを捨てないという意識を持ってもらおうと思っています。そのほか、環境問題に関心を持ってもらうために3学年にわたって夏休みの宿題として美化に関するポスターの作成を課したり、国語の宿題として「環境問題」に関する作文を書かせることもしています。高校生では有志によるボランティア活動の一環として通学路や鎌倉の街の清掃などを実施しています。			

学 校 名	北鎌倉女子学園	代表者	又木 正登
取組状況 鎌倉三大緑地のひとつである台峯緑地に囲まれ、自然に恵まれた本校では、中学1年生を中心として、その豊かな自然を利用して環境教育を行っています。まず、中学1年生時に学習する理科2分野の「身近な植物の観察」を学校周辺野外にて行います。近頃の子どもたちにとっては珍しい様々な「雑草」を観察することができます。また夏には野辺山合宿を行い、登山を通して北鎌倉とは大きく異なった自然に接しています。そして学年末には「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」のボランティアの方々に講師をお願いして、北鎌倉山歩きを行います。耕地から自然に戻った様子を実際に見ることができます。こうして一年を通して自然本来の姿を理解し、人間と自然の共存を学ぶ機会としています。他に高校3年生の生物における植生調査や水質調査を学校周辺の野外、小袋谷川にて行います。また化学部では、環境保全課で主催している酸性雨調査に毎年参加しています。			
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> </div>			

学 校 名	鎌倉女子大学	代表者	福井 一光 学長
<p>取組状況</p> <p>鎌倉女子大学は、平成15年に大船キャンパスを開設するにあたり、それまで松竹大船撮影所が保全してきた里山に池や観察路を増設し、野外教育施設「東山ビオトープ」を整備した。とくに、開設時に市役所ビオトープから譲り受け、池に導入した43匹の鎌倉メダカは数年後には数千匹の個体群に成長し、環境教育の好適な教材となった。</p> <p>以下、環境教育の取組を紹介する。</p> <p>メダカの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 池で増殖したメダカの生態観察。形態スケッチ、行動実験（児童学科「生物学・化学実験」） ● 好適な飼育環境の調査（短期大学部専攻科） ● メダカを使って併設幼稚園部の幼児と遊ぶ（専攻科） <p>教材園における作物の栽培と観察（児童学科「山根ゼミ」）</p> <p>東山における自然体験学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 野鳥の識別法を学習した上で野鳥探索 ● 瞑目して環境音（野鳥、風、落葉、飛行機など）の存在を発見（以上、児童学科「理科教育法」、「保坂ゼミ」） ● 自然遊びの実践的研究（児童学科「西島ゼミ」） 			
			
<p>写真・東山にて瞑目し自然の音を発見する(児童学科「理科教育法」)</p>			

学 校 名	鎌倉女学院中・高等学校	代表者	齋藤 俊英
<p>取組状況</p> <p>中1</p> <p>「富士五湖周辺自然観察」で、2泊3日で次のような研修を行い、環境学の基礎として、自然に関心を持ってもらいました。</p> <p>第1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富士湧水の里水族館にてワークシートを用いた淡水魚の観察 ・ インストラクターの解説を聞きながら、青木ヶ原樹海ウォーク <p>第2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペットボトルを使って山中湖の生物を採集 ・ 山中湖畔に落ちている釣り糸の回収 ・ 山中湖をきれいにするための方法について話し合い、班ごとに発表 			

第3日

- 山梨県環境科学研究所及び生物多様性センターの見学

中3

「環境」という授業を1年間行い、環境問題について班ごとに調べ、次のようなテーマで発表してもらいました。

- ゴミとリサイクル
- エネルギー問題
- 地球温暖化 等

高2

4泊5日の「フィールドワーク沖縄研修」で、事前のリサーチや事後のレポート提出を通して、沖縄の自然や環境問題について学びました。

- 事前リサーチでは、授業や書籍、インターネットで沖縄の環境問題について学びました。
- 4泊5日の研修ではマングローブの観察や海洋生物の観察を通して沖縄の自然を体験的に学びました。
- 事後のレポートでは、さんご礁の被害など海洋生物の問題について報告しました。

高3

英会話の授業の中で、資生堂鎌倉工場やIGES（地球環境戦略研究機構）をパートナーとして環境問題に関するプロジェクトに取り組みました。

中学生

次の「土曜講座」で自然観察の仕方を学びました。

- 「ビーチコーミング」では、材木座海岸の漂流物を観察
- 「バードウォッチング」では、鎌倉八幡宮周辺の鳥の観察

公立高等学校における環境教育の取組

学 校 名	神奈川県立大船高等学校	代表者	校長 佐藤 信行
取組状況			
大船高校の日常的取組としては、各教室内に3～4種類のゴミ箱を設置し、「燃えるゴミ」「プラスチック」「空き缶」「ペットボトル」と分別し、リサイクル出来るようにしている。 またペットボトルのキャップを別に収集し、「エコキャップ運動」に参加している。 県立高校全体の取組でもあるが、地域貢献デー（20年度は10月23日）を中心にクラス毎に何日かに分けて、毎年通学路の美化活動を実施している。生徒は全員参加する。 授業での取組としては、教科の特性はあるが、生物、化学、現代社会、地理、政治経済、家庭科、保健の授業で環境問題を学ぶ機会がある。また、国語と英語の教科書には環境問題を扱ったものが必ず含まれており、それぞれ環境問題を学ぶ機会になっている。			

学 校 名	神奈川県立鎌倉高等学校	代表者	校長 林 誠之介
-------	-------------	-----	----------

取組状況

I 鎌倉高校の教科活動における環境教育

(1) 地歴・公民

地理A

単元：様々な地域からみた地球的課題

- ① 地球環境問題について
 - 地球環境問題の現状
 - 地球環境問題の相互関係
- ② 地球環境問題への取組
 - 国際的な取り組みについて
 - 循環型社会について

政治経済

単元：日本国憲法の基本的性格

- ① 新しい人権・・・環境権について

単元：市場経済の機能と限界

- ① 外部不経済の項目（公害問題など）
- ② 現代の企業活動での環境への配慮
- ③ CSR (Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任) について

(2) 理科

生物 I・II

単元：生態系の保全

授業中に環境問題に関するTV番組やDVDを見せて生徒の関心を高めた。

- テレビ朝日「地球危機2008」「列島異変2008」
- 「earth」

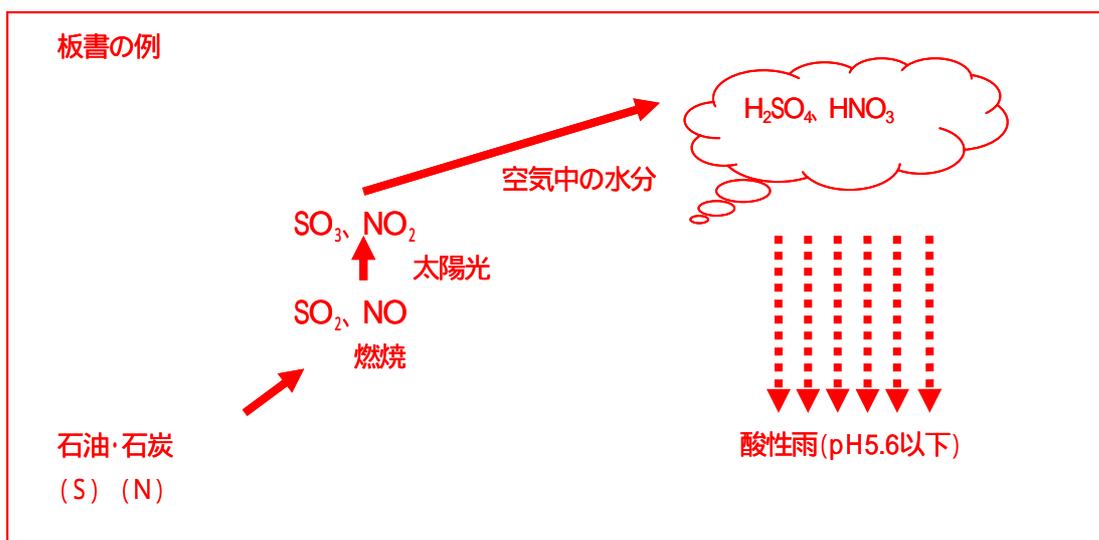
担当クラスに2時間～3時間程度

化学 I

単元：酸・塩基

酸性雨についての説明

身近な物質のpHの例を挙げて、酸性雨について説明した。



(3) 保健・体育

2年 保健

単元	主な学習活動
大気汚染と健康	個別の課題に即して調査活動や探求活動を行う
水質汚濁と健康	ビデオ学習で公害発生のメカニズムを理解する
土壌汚染と健康	学習プリントに即して自分の考えで健康について学習する
健康被害の防止と環境対策	公害発生を予防する方法を調べる
環境衛生活動のしくみと働き	様々な規制や基準について調べる

(4) 英語

「環境」を関連した教材で環境問題などについて考えるように心がけた。

1年

英語Ⅰ (教科書：CROWN)

- Lesson 6 Living with Chimpanzees

2年

英語Ⅱ (教科書：provision)

- Lesson 2 Tuvalu—Disappearing Islands

3年

Reading (教科書：CROWN)

- Lesson 3 Global Warming

その他、「種の起源」「現代人の自然環境意識」など副教材も含めて扱った教材は多数

(5) 家庭科

単元：資源を生かす

- 現在のライフスタイルが環境に及ぼす負荷について考え、その解決策を検討した。
- 環境保全の取組を知り、自分が実行できることを考えた。

(6) 国語

国語表現

① 小論文演習 ～出題テーマ～ 「科学技術」

「自然科学及びそれに関連する技術の進歩は、人間の生活様式を改良し豊かで便利な社会の構築に大きく関与していますが、同時にしばしば自然科学や生態系へ悪影響を及ぼし、深刻な社会問題を引き起こしています。自然科学・技術の持つこのような二面性の具体例を取り上げ、自然科学的視点から論述しなさい。」

- 具体例を考える際に、環境問題等について考えた。

(例)自動車

功・・・人の移動や物の運搬を効率よく行うことができる。

罪・・・排気ガスによる大気汚染や地球温暖化の問題を引き起こしている。

②中央大学「第8回 高校生地球環境論文」への取組

- 学校賞の受賞
- 生徒作品の入選

学 校 名	神奈川県立深沢高等学校	代表者	高梨 美智子
取組状況			
<p>ごみの分別、リサイクルをしている。</p> <p>「現代社会」の授業において、鎌倉市のゴミ分別の取組について触れ、市民の協力で、以前に比べてゴミの分量自体が減ったという事例などを紹介した。一方、ドイツのフライブルクなどの環境都市なども紹介している。</p>			

環境教育の人材派遣

< 環境政策課 >

平成19年4月1日に体系的な環境教育の推進を図るため、学校等の環境教育の場へ環境に関する専門的な知識を有する又は活動経験を有する環境教育アドバイザーを派遣する制度を創設しました。平成20年度は、市内の小中学校、その他の団体に延べ29回環境教育アドバイザー等を208人派遣しました。

環境出前講座

< 環境政策課 >

主に小中学校からの要望に基づく環境出前講座を実施しました。講師は市職員、市民ボランティアや環境カウンセラーで、平成20年度は22回開催し、受講者数は合計1,242人でした。

平成20年度は表7-5、表7-6のとおり実施しました。

表7-5 環境出前講座実績

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
回数 (回)	24	18	17	16	14	22
受講者数 (人)	886	1,027	1,049	756	774	1,242

表7-6 環境出前講座 平成20年度の内訳

No.	月日	対象者	人数(人)	場所	内容
1	5月21日	栃木市立栃木第一小学校	5	環境政策課ビオトープ	鎌倉メダカ、扇川について
2	5月28日	山崎小学校	90	山崎小学校	環境、地球温暖化、ごみ、3R
3	6月3日	稲村ガ崎小学校	35	稲村ガ崎小学校	酸性雨・地球温暖化
4	6月5日	七里ガ浜小学校	63	七里ガ浜小学校	酸性雨・地球温暖化
5	6月12日	大船小学校	58	大船小学校	酸性雨・地球温暖化
6	6月13日	桜美林大学	1	鎌倉市役所	環境施策について
7	6月19日	西鎌倉小学校	119	二又川付近	二又川の水生生物調査ほか水環境
8	6月25日	今泉小学校	75	今泉小学校	環境、地球温暖化、ごみ、3R
9	6月30日	第二小学校	64	第二小学校	環境、地球温暖化、ごみ、3R
10	7月1日	御成中学校	120	御成中学校	鎌倉の環境、大気・水質について
11	7月2日	関谷小学校	60	関谷小学校	環境、地球温暖化、ごみ、3R
12	7月4日	深沢小学校	34	深沢小学校	酸性雨・地球温暖化
13	7月9日	植木小学校	66	植木小学校	酸性雨・地球温暖化
14	9月5日	かまくら食育クラブ員養成講座	19	腰越学習センター	鎌倉市における環境への取組
15	10月6日	かまくら食育クラブ員養成講座	18	深沢学習センター	家計にやさしいエコライフ (食育)
16	10月14日	深沢小学校	122	深沢小学校	環境、地球温暖化、ごみ、3R
17	10月14日	清泉小学校	38	清泉小学校	環境、地球温暖化、ごみ、3R
18	10月28日	関谷小学校	122	関谷小学校	関谷川の環境調査

19	10月30日	富士塚小学校	40	富士塚小学校	酸性雨・地球温暖化
20	11月10日	大町6, 7町内会	13	名越自治会館	ごみの分別、生ごみ処理機、地球温暖化について
21	1月27日	富士塚小学校	30	富士塚小学校	環境、地球温暖化、ごみ、3R
22	2月5日	岩瀬町内会	50	岩瀬町内会館	地球温暖化対策地域推進計画について
合計			1242		

かまくら食育クラブ養成講座

< 市民健康課・環境政策課 >

「かまくら食育クラブ養成講座」(地域で鎌倉の食育を推進するボランティアを育成する講座)において食を通して環境を考える単位を設けています。

この中で「食の3Rを考える」と題した講話や環境に配慮した調理実習を行い、併せて環境政策課職員が地球温暖化の現状やその対策などについて話し、省エネ行動・環境にやさしい生活の普及啓発を行いました。

「収穫まつり」における環境保全、地産地消PR活動

< 環境政策課・資源循環課・市民健康課 >

毎日の生活の中で、ごみダイエットや省エネ行動などを心がけることで、鎌倉にも、地球にも、そして、体にも優しい環境づくりを考えていただくことを目的とするPR事業として「からだ元気・かまくら元気・地球元気in収穫まつり」のブースを設置しました。(「Aさがみ鎌倉地区運営委員会主催「収穫まつり」会場・大船中学校) また、かまくら食育クラブ(地域で鎌倉の食育を推進するボランティアのネットワーク)の協力で、鎌倉で育った農作物を利用したメニューの提供を行い、地産地消をPRしました。

食育を通じた地産地消PR活動

< 市民健康課・産業振興課 >

一般市民を対象に開催する食育カレッジアカルトで「Aさがみ鎌倉市青壮年部の協力を得て、農作業体験と鎌倉野菜で作る「漬物づくり」の講座を開催し、地産地消のPRをしました。

鎌倉市職員の環境教育

< 環境政策課 >

市では、環境保全に関する職員の資質を高めるため研修等を実施しています。平成20年度は表7-7、7-8のとおり実施しました。

表7-7 エコアクション推進委員会事務局により実施した環境保全に関する研修

研修等の名称	対象・参加人数	内容
不要紙類の分別について	実行推進委員 48名	不用紙類分別について実務研修
地方公共団体向けマニュアルについて	実行推進委員 47名	鎌倉市役所エコアクション21のガイドラインを地方公共団体向けに変更することについて説明
鎌倉市役所の環境マネジメント報告書平成20年度版(案)について	実行推進委員 20名	鎌倉市役所の環境マネジメント報告書平成20年度版(案)について説明

表 7-8 環境保全に関する研修

実施部門等	研修等の名称	対象・参加人数	内容
学校	身近な環境問題地球温暖化	職員 115 名	地球温暖化について
稲瀬川保育園	不要紙類分別研修	職員 2 名	不要紙類の分別について
腰越保育園	不要紙類分別研修	職員 2 名	不要紙類の分別について
岡本保育園	不要紙類分別研修	職員 4 名	不要紙類の分別について
健康福祉部	職員研修	職員 2 名	不要紙類の分別、地球温暖化について
材木座保育園	不要紙類分別研修	職員 2 名	不要紙類の分別について
深沢保育園	不要紙類分別研修	職員 7 名	不要紙類の分別について
大船保育園	不要紙類分別研修	職員 8 名	不要紙類の分別について
寺分保育園	不要紙類分別研修	職員 8 名	不要紙類の分別について
世界遺産登録担当・生涯学習部	職員研修	職員 27 名	地球の環境問題について
市民経済部	職員研修	職員 40 名	地球温暖化問題に関する最近の動向について
こども部	職員研修	職員 40 名	地球の環境問題について

教育研修会の実施

<教育センター>

平成20年度は、理科・総合研修会として、「夏の植物の教材化」というテーマで研修を行いました。実際に鎌倉中央公園を歩きながら、植物の名前の由来や、生活の知恵として人間が身近な植物をどのように利用してきたかについて学びました。また、「最新の研究成果についての講義と施設見学」というテーマでも研修を実施して、海洋研究開発機構横須賀本部で、海洋調査についての最先端の研究成果についての話をうかがいました。

環境保全に関する作品コンクール

<環境保全課・みどり課・下水道課>

夏休みの自由研究として、平成7年度から毎年、市内の小学校4～6年生と中学生を対象に環境保全に関するポスターの「作品コンクール」を実施しています。

平成20年度は「緑」（小学生4～6学年、中学生対象）と「まちの美化」（中学生対象）という二つのテーマで実施しました。応募作品（ポスター）は、緑に関するものが209点、まちの美化に関するものが230点で、その中から「美化」では、10点、「緑」では36点が優秀作品として選ばれました。

小中学生及び一般の方を対象に9月10日の「下水道の日」にちなみ、(社)日本下水道協会及び(株)日本水道新聞社主催で、「下水道いろいろコンクール」が実施されました。

環境保全関連講座の開催

<生涯学習課・青少年課>

市民や青少年を対象に、環境保全に関心を持ってもらうため、表7-9のとおり講座を開催しました。

表 7-9 環境保全関連講座開催状況

講座名	開催期日・主催	参加者数
異常気象～07年猛暑と08年豪雨	平成21年1月31日(土) 鎌倉生涯学習センター	230人
身近な野草を鉢植えに～四季のミニ盆栽作りと手入れ～	平成20年5月19日(月)・7月21日(月)・10月20日(月)・平成21年2月16日(月) 腰越学習センター	56人
夏休み子どもの科学～環境・電気教室	平成20年7月24日(木)・26日(土) 深沢学習センター	52人
あなたも安全運転とエコドライブに取り組みませんか	平成20年4月26日(土) 深沢学習センター	12人
海の生き物たち～この50年の変化	平成20年7月27日(日)・8月3日(日) 大船学習センター	32人
日本の種が危ない、あなたの食が危ない	平成20年10月17日(土)・31日(土)・11月14日(土)・28日(土) 玉縄学習センター	32人
世界の動物絵巻～動物たちとの共生をもとめて	平成20年6月20日(金)・27日(金)・7月4日(金)・11日(金) 玉縄学習センター	53人
気象予報士の天気ばなし	平成20年9月6日(土)・13日(土) 玉縄学習センター	47人
古布を使って布ぞうりを作ろう	平成20年7月15日(火) 玉縄学習センター	20人
楽しい科学「宇宙・エネルギー教室」	平成20年5月10(土)・11日(日) 玉縄青少年会館	86人
楽しい科学「海洋・電気教室」	平成20年12月13日(土)・14日(日) 玉縄青少年会館	71人
科学で遊ぼう「環境教室」	平成20年5月25日(火) 鎌倉青少年会館	20人
楽しい科学「海洋教室」	平成20年12月6日(水) 鎌倉青少年会館	21人

消費生活移動教室・消費生活講座の開催

<市民活動課>

身近な生活知識(食の安全、住生活、金融商品の知識など)をテーマに取り上げて、学習の場を提供しています。平成20年度に開催した環境問題に関連した教室等の状況は表7-10のとおりです。

表 7-10 移動教室・消費生活講座の概要(環境問題関連)

講座名	内 容	参加者
夏休み子ども教室 実験!飲み物の甘さと排水への影響	ジュース、菓子などに含まれている糖分を実験によって確認し、また、排水への影響などを学ぶ	42人

こどもエコクラブ

<市民・事業者>

次世代を担う子どもたちに対する環境保全活動・学習の場として、平成7年度から環境省が主唱して都道府県や市町村との連携で始まった「こどもエコクラブ」があります。こどもエコクラブは、子どもたちが自発的に楽しく継続的な活動を行うことを目的としています。

なお、市内のクラブ数は、表7-11のとおりです。

表 7-11 こどもエコクラブ登録数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
クラブ数	2	3	3
メンバー数	45人	140人	138人

(3) 各主体の連携

「環境共生都市の創造」に向けた具体的な目標を達成していくためには、市民、事業者、滞在者、市のそれぞれが環境に関心を持ち、環境に対する自らの責任と役割を理解することが重要です。市民団体等の協力を得て、環境教育・学習を推進するとともに、自発的な環境保全行動の取組を活性化し、その活動を広げ、地域社会全体に定着させていかなければなりません。

環境保全団体活動に対する支援

<環境保全課>

市では、市内の環境保全団体の自発的な活動を促進するための支援策として、環境保全に関する学習会等を行う場合に講師を派遣する助成のほか、活動における通信費の負担を軽くし、より多くの環境保全情報を提供するため、環境保全団体の会員の方への会報などを郵送する通信助成を行っています。さらに、環境保全団体が実施する催しについての後援も行っています。後援の内容は、後援名義の使用承認、催しの施設提供、「広報かまくら」への掲載及び必要な電話の取次ぎなどです。なお、これまでの実施状況は表7-12のとおりです。

表 7-12 環境保全団体に対する支援の実施状況

項目 年度	通信助成		講師派遣助成		後援	
	団体数	支援実績	団体数	支援実績	団体数	支援実績
平成18年度	7	1,509通	3	4回	6	12回
平成19年度	6	1,223通	2	3回	7	9回
平成20年度	6	1,134通	2	2回	5	6回

市内環境保全団体等の活動状況

< 市民・事業者 >

市内には、自然保護、美化、環境教育など環境保全に関する様々な活動を行っている市民団体があります。これらの団体から平成20年度の活動内容を報告してもらい、原文のまま掲載しました。(五十音順)

団体名	鎌倉を美しくする会	会員数	30名	代表者	高田晶子さん	
活動目的	散乱ごみゼロとベンチで憩う美しいまちづくり					
【活動の内容】						
落書き・貼り紙防止：消去及び除去活動						
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 通年町中落書き・貼り紙のチェックし担当課に情報提供 常習犯に悩まされつつも、大型の落書きは影を潜めています。しかし通年パトロールは欠かせません。当会の市内巡回活動は多大な貢献をしています。 						
展示・研修等						
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「10周年市民活動の日フェスティバル」 パネル展示「1ステージ ベンチ設置活動から 2ステージ 維持活動へ」 ➢ 「屋外広告の日鎌倉駅東口界隈キャンペーン」 都市景観課主催。当会協力員 3人参加 ➢ 第10回アダプトシンポジウム：於 品川プリンスホテル 						
散乱ごみ防止・清掃活動						
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 4/1～4大東橋周辺・砂押川護岸の堆積土砂を除去作業、22袋分 ➢ 4/5若宮大路一の鳥居周辺の草取り ➢ 5月連休（5/3、4、5）若宮大路とその周辺 ➢ 5/24「飛び砂を浜にもどそう」滑川交番前の飛び砂を由比ガ浜海岸に戻す活動 ➢ 8/11花火大会 散乱ごみ防止活動 ➢ 9/25笠間口からヤマダ電機に至る草取りと萱の根掘り起こし ➢ 正月三が日若宮大路とその周辺啓発清掃 ➢ 通年 バス停ベンチ設置周辺の見回り、清掃と管理 						
「大船駅笠間口周辺の美化問題について」						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 2009/1/9大船駅笠間口周辺の美化問題懇談会以降、問題解決に向けて根気よく取組んだ結果、誰もが驚くほどきれいになり、多大な成果をあげることが出来ました。 						
特記事項						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年に次いで下馬四つ角のベンチが派手に壊されると言う被害に遭遇しました。警察への被害届、補修費の出費も強いられましたが、維持管理の大切さを再認識しました。 ○ 8/17TBS「噂の東京マガジン」で当会のベンチ設置活動が紹介されました。 ○ 2/21「かわごえ環境フォーラム」で講演 演題「市民活動と行政との協働－鎌倉の事例をもとに」 						
■2007年度バス停ベンチ設置箇所（2008年4月～2009年3月）						
設置日	場所(停留所名)	台数	種類	撤去数	道路	管轄
2008年 4/01	島の神（藤沢方面）	1台	更新	2台	県道	神奈川県
4/21	仲の坂（市役所方面）	1台	更新	1台	市道	鎌倉市
5/30	小坂小学校（大船方面）	1台	更新	1台	県道	神奈川県
2003年度～2008年度 641箇所バス停に73台設置。撤去した違反ベンチ台数172台						

団体名	鎌倉を楽しくする会	会員数	88名	代表者	伊藤泰三郎さん	
活動目的	「鎌倉の歴史を背にしてボランティア」とのキャッチフレーズに鎌倉の文化を探求しながらまちの散乱ゴミを12年間拾っている。					
【活動内容】						
鎌倉の歴史は、鎌倉市内に留まらずに、旧鎌倉郡内にその文化・歴史を刻んでいる。隣の藤沢市や横浜市栄区にはその名残が多く残っている。 鎌倉は世界遺産登録の運動中であるが、この地域を含めた運動展開にしなければならない。						
活動日	活動場所	活動内容	参加者数	ゴミ拾い実績 (kg)		
				燃えるゴミ	ビン・缶	その他
平成20年 4月23日 (水)	本龍寺 片瀬東浜	本龍寺でご住職法話、お手植えの日本桜草鑑賞。 134号線からの片瀬東浜の散乱ゴミ拾い。	31名	300	15	
5月21日 (水)	證菩提寺の 法話 いたち川	頼朝創建の證菩提寺、ご住職から法話を頂く。 この川は「出で立ち川」鎌倉入り前に装束を正した所。	23名	50	20	
6月12日 (水)	光明寺	久米上人の法話、歴代ご住職の御廟所の清掃は 降雨の為中止。	19名	—	—	
7月23日 (水)	定泉寺 田谷の 洞窟	洞窟は真言禅の修行道場。鎌倉時代～江戸時代 まで掘られた。大船駅西口～寺までクリーンU p。	23名	100	20	
8月6日 (水)	鶴岡八幡 宮ぼんぼ り祭り	昭和13年から続く、内外の文化人によるぼ んぼりを鑑賞した後、インド料理納涼祭。	23名	—	—	—
9月24日 (水)	江島神社 片瀬海岸 の清掃	江島は鎌倉だったが昭和22年突然藤沢市となっ た。江戸時代は弁財天信仰が盛んであった。	24名	150	10	50
10月22日 (水)	秋の舞岡 公園	5月のいたち川同様、ここも行政・市民・団 体が協働して美化した見本のような公園。ゴミが 無い。	23名	—	—	—
12月3日 (水)	貞宗寺とフ ラセター	ご住職から徳川家と貞宗寺について法話を頂 く。寺宝を拝見した後、大船駅まで清掃。	23名	100	20	22
平成21年1 月21日 (水)	クルーズ &クルー ズ	「My箸」を推奨しているbuffeで体験研修 と懇親会。	31名	—	—	—
3月11日 (水)	栄区光明 寺と近辺 の清掃	ご住職から鎌倉の寺社の変遷について、広範な 知識によるご法話を頂く	24名	200	30	2
ゴミ回収実績			—	900	115	74
年間活動日数 10日 延べ活動人員 244人 ※他にまち美化クリーンデー参加がある。						
<ひとこと>						
①各月のボランティア企画は企画委員の自主的提案をベースに実施している。						
②東鑑・源平盛衰記などの資料から鎌倉のエリアはもっと広域に見るのが正しい。						

少なくとも横浜市西部・三浦・葉山・逗子・藤沢は鎌倉であり、鎌倉の景観づくりに含めること。

③鎌倉の世界遺産登録には、社寺以外の民間建造物、公的インフラの景観整備が必要です。例えば、雲の巣状の電線、街中のガードレール、舗道のフラット化、など。

団体名	かまくら環境会議	会員数	40名	代表者	大道不二子さん
活動目的	自然保護、調査活動、環境啓発、環境学習支援、学習会、情報発信				
<p>【活動の内容】</p> <p>鎌倉市の河川維持管理協力団体として、生物・水質調査を原則として奇数月の土曜日に、水部会を中心に年5回実施しました。その他、扇川のホタルの鑑賞会を1回開催しました。また、扇川の清掃及び草刈を1回行いました。</p> <p>環境教育支援として、10月に関谷小学校6年生の関谷川環境観察を支援しました。</p> <p>2月に学習会「玉縄の環境保全の現場から」玉縄城址まちづくり会議の荒井さんと関谷川をきれいにする会の柳沢さんを講師に玉縄の歴史と自然について学習しました。</p> <p>海洋生態観察として、6月に「海岸調査」を実施し、鎌倉の海の現状を知りました。</p> <p>大気中の窒素酸化物測定を6月と12月に年2回実施しました。</p> <p>NPOセンターフェスティバルに参加し展示・布ぞうり作り・「玉縄城址まちづくり会議」が主催したりレートークに参加しました。</p> <p>まち美化運動連絡会に参加し、美化活動に協力しました。</p> <p>5月と9月に神戸川環境調査を実施しました。</p> <p>かまくら環境保全推進会議に団体委員として参加し、市の環境政策推進に協力しました。</p> <p>広町の水質調査及び生きもの調査を1回行いました。</p> <p>「扇川だより」を発行しました。</p> <p>石原谷戸の環境調査を2回実施しホタル観察会を行いました。</p> <p>西鎌倉小学校4年生神戸川観察に講師として参加しました。</p> <p>豆腐川のアカテ蟹観察会に参加しました。</p> <p>3月に見学会「玉縄の風土と自然」を開催し玉縄地区について学びました。</p> <p>【活動の成果】</p> <p>扇川の水質・生物データを市に提供し、共有することができた。</p> <p>環境教育では、市民や子供達への支援をすることで、啓発の一端を担えた。</p> <p>行政や企業、また他の市民団体との協働により、意識の共有ができた。</p> <p>環境保全やまち美化に貢献できた。</p> <p>「よへい屋敷谷戸の会」にアドバイザーとして参加しました。</p>					

団体名	鎌倉湖エコクラブ	会員数	24名	代表者	横溝節夫さん
活動目的	周辺の自然環境保全、その学習				
<p>【活動の内容】</p> <p>○公園及び砂押川上流域の環境保全として雑草の除去清掃を定期的に行っている。</p> <p>○環境学習会として毎年フォーラムを開催し、環境保全への意見交換をしている。</p> <p>○小学生を対象に資源の大切さ自然保護の重要性を知ってもらうイベント（寺子屋塾）を称名寺で2日間にわたって行っている。</p> <p>【活動の成果】</p> <p>砂押川上流域に多くの生物（ホタル、魚類、カニ類）が戻っている。</p> <p>鎌倉湖の水質調査が継続して必要である。</p>					

団体名	鎌倉自主探鳥会グループ	会員数	142名	代表者	岩田晴夫さん
活動目的	自然観察、自然保護、水質・動植物調査、環境教育、エコアップ作業、政策提言				
<p>【活動の内容】</p> <p>私達は、(財)日本野鳥の会・神奈川支部の趣旨に基づき、野鳥を通じて自然に親しむと共に、自然の保護と住環境のアメニティーの向上をはかることを目的として活動を実施しています。</p> <p>① 一般市民対象の定例自然観察会「鎌倉自主探鳥会」を毎月2回実施。 自然観察の精神と方法の普及、自然観察会リーダーの養成、地域的な自然保護活動の促進、都市公園と緑地のエコアップ(生息環境向上)を図ること等が目的です。コースの途中、佐助川の清掃・エコアップ・水質と水生生物調査、佐助稲荷のエコアップ(1993年5月～)、源氏山公園の野鳥用水場の清掃、台峯緑地と鎌倉中央公園の動植物調査やエコアップ(1993年5月～)等の作業を実施。</p> <p>② 源氏山公園の野鳥誘致施設の管理(1984～)。</p> <p>③ 鎌倉市傷病鳥獣保護搬送システムへの協力を委託されています(1993～)。</p> <p>④ 平成6年以降、鎌倉市から鎌倉市緑のレンジャー(ジュニア)指導員の委嘱を受け、鎌倉市緑のレンジャー(ジュニア)の活動を年間10回指導。</p> <p>⑤ 鎌倉市水道管理課から道路・河川維持管理協力員の委嘱を受ける(1997～)。 佐助川のエコアップ活動・水質調査・水生生物調査・清掃・草刈り等を実施しています。</p> <p>⑥ 鎌倉中央公園の管理運営協力団体として、鎌倉中央公園の管理に対し、既存の野生動植物ができるだけ保全されるように、基礎データを提供すると共に、具体的な方法を提示し、エコアップ作業と環境モニタリング調査を実施。</p> <p>⑦ 教養センターの「バードウォッチング」講座の講師を務める。</p> <p>⑧ 「鎌倉の海岸動植物の生息分布調査」をかまくら環境会議・鎌倉市緑のレンジャー指導員と協力し、鎌倉市の後援を得て実施し(1996～)し、海岸動植物の保護策を提言。</p> <p>⑨ (財)日本野鳥の会の全国一斉ガンカモ調査に協力(1月)。</p> <p>⑩ 鎌倉市内を春秋に通過するタカ類の渡り調査、鎌倉市内の自然環境台帳作り、酸性雨調査、河川の水質と水生生物調査、緑地のモニタリング調査等を実施。</p> <p>⑪ 自然保護団体や自治会・学校関係の自然観察会等に講師を派遣。</p> <p>⑫ 鎌倉メダカの保護増殖。市役所前のビオトープ池の管理・モニタリング調査に協力。</p> <p>⑬ 鎌倉市のタイワンリス防除実施計画の策定に協力。</p> <p>【活動の成果】</p> <p>鎌倉中央公園の湿性花園内に既存動植物の保全区域を維持している。主要緑地における環境モニタリング調査と湿地環境のエコアップ作業を継続。近郊緑地保全地区や公園整備中の夫婦池等の自然環境調査結果から、神奈川県と鎌倉市の管理・整備に対しアドバイスし、既存の野生動植物の保全に寄与しました。</p>					

団体名	山崎・谷戸の会	会員数	900名	代表者	吉野俊雄さん
活動目的	鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観や多彩な動植物を保全する市民活動				
<p>【活動の内容】</p> <p>「鎌倉中央公園」第一工区開園(1997年)以来、運営協力してきた谷戸ボランティアの会10団体の各活動を継承し、準備会議を重ね2004年4月に全面開園に合わせて行政との協働で本会を発足させた。2008年4月より特定非営利活動法人団体となる。</p> <p>当会は7つの活動班①田んぼ班(湧き水を利用した伝統的作業の米作り)②畑班(根菜・豆・麦等を中心に、堆肥を利用した循環型の無農薬農法)③雑木林管理班(下草刈りや間伐などの雑木林の手入れなど)④農芸班(農産物・谷戸資源の加工)⑤自然遊び班(農作業の手伝いを含む子どもの自然遊び)⑥生態系保全班(動植物の観察や調査、小動物が住みやすい環境作り)⑦植物育成班(谷戸に自生する植物の保護、育成)を設け、この班活動を中心に鎌倉中央公園内の谷戸において、昔ながらの農林作業や保全作業を行いながら、谷戸の景観と自然生態系を守り育て、里山の復活再生を目的とする。</p> <p><年間の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 谷戸の保全に必要な季節に応じた7つの班活動(年206回) そのうち、協働事業として公園協会から報奨金(年70回) 事務局の運営(木曜を除く毎日6時間、交代制で実施)会員、一般市民、各種団体の問い合わせ対応・案内、行政交渉、広報活動、各メディアからの取材対応、谷戸パトロール、各班の平日補助作業等 谷戸まつりを開催し(年2回)、公園で収穫した農産物や加工品を参加者に頒布 会報の発行(年6回) <p><行政、公園海浜課、公園協会との協働など></p> <p>公園利用者懇談会(1回)、鎌倉中央公園管理運営協議会(1回)、3者協議に出席(2回)</p> <p><主要事業及び公園協会との協働事業></p> <p>理事会(4回)、谷戸まつり(2回)、お泊り里山体験、活動連絡会(1回/月)、「ホテルの紙芝居」とパトロール(6/7~7/13まで、全13回)</p> <p><体験学習の受け入れなど></p> <p>鎌倉市環境政策課へ環境アドバイザーに登録し、学校との連携を深めた。毎回、事前に学校、担当者と打合せをし、活動後は担当者と反省会を行う。また、子ども達が学校でまとめた活動ごとのふりかえりをもとに次の活動につなげ、さらに学習、活動が充実するように努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 深沢小学校小1年「自然となかよし」4回、5年「谷戸田の米作り」8回、6年「昔ながらの畑」9回 御成中1年「谷戸の保全作業」2回 教育支援教室ひだまり「谷戸田の米づくり」8回 藤沢市羽鳥中2年「谷戸の保全活動」1回 市川市立福栄中2年「谷戸の保全活動」1回 その他、深小教員補助作業、鎌倉市保育士講座 <p><他団体の受け入れなど></p> <p>てらこや「谷戸田の米づくり」、市民健康課主催「食育講座」の畑体験、玉縄城址まちづくり会議主催講座、かまくら子育て支援グループ懇談会の「里芋掘り」、梶原山子ども会</p> <p><他団体への訪問・交流・会議出席など></p> <p>食育クラブ参加、講演会「食育で見直す家庭教育」(大豆100粒運動:辰巳芳子氏)参加、校長会で「体験学習の手引き」贈呈および「たのくる豆」提供、深小ふれあい広場会合に出席、こども未来ファンド助成金報告会に出席、大豆100粒運動を支える会総会に出席、日本自然保護協会主催「モニタリングサイト1000里地調査」説明会・講習会に参加、鎌倉風致保存会会員制度発足10周年記念「辰巳芳子さん講演会」に参加、広町収穫祭に参加</p> <p><特別企画></p> <p>設立5周年記念事業として、記念イベント開催。姫田忠義氏の講演と映画上映、会員と一般市民の参加者総勢150名の参加者で盛況だった。</p> <p><講演会・事例発表など></p> <p>かまくら市民活動の日フェスティバル「リレートーク私の生物多様性」で発表、神奈川子ども未来ファンド助成贈呈式・助成報告会にて発表、逗子中学校にて講演、第15回市民環境活動報告会にて発表</p> <p><取材および掲載など></p>					

朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・神奈川新聞・鎌倉朝日・湘南よみうり・タウンニュース・KCTV等

< 訪問・協力 >

風致保存会(十二所)へ、大豆の提供・植え方等指導、NPOフェスティバルに参加・展示・デモンストレーション、名越クリーンセンターより堆肥搬入

< 農産物の寄付提供および道具の貸し出しなど >

「デイ華花」、深沢小学校ふれあい広場、かまくら子育て支援グループ懇談会の一泊冒険遊び場、深沢地区社会福祉協議会、鎌倉風致保存会、障害児支援施設「のんびりスペース大船」、丸山子ども会、青空自主保育4団体、広町田んぼの会など

< 活動の成果 >

- ・ 特定非営利活動法人団体となり活動が安定した。正会員数350 総会員数900
- ・ 里山保全活動により、多様な生物の生息が確保されている。
- ・ 班活動への会員参加が増えた。
- ・ 市内外の各種団体、メディアからの問い合わせ、見学や体験参加が増えた。
- ・ 事務局員の仕事の組織化に努め、多くの業務を対処した。
- ・ 一般市民が参加できる企画を増やし、会の周知を図れた。
- ・ 小・中学校の総合的な学習が定着してきた。

団体名	鎌倉の自然を守る連合会	会員数	4,200世帯 (7自治 ・町内会)	代表者	奥田 せい子さん
活動目的	広町緑地の保全・維持・管理活動				
【活動の内容】					
1、<活動方針> 連合会（7自治・町内会）は25年にわたり、広町緑地の保全運動を展開し、その開発行為を阻止し、全面保全を獲得した。その歴史的成果をふまえ、同緑地の有意義な都市林公園を構築し、これを後世に継承していく責務を遂行し、その活動に資するため活動している。					
2、<活動内容>					
1) 都市林公園構築に参画——広町緑地の都市林構築に関して全市的な立場に立ったシステム化を図ることを市に要望し、主な市民団体の話し合いの場として「市民懇談会」が発足、その後4市民団体と4作業部会で「新・市民懇談会」として再出発した。「市民主体の自立した運営組織」構築のためワーキンググループを立ち上げ検討し、有意義な都市林公園に貢献していく。					
2) 連合会加盟自治・町内会の意見吸収——広町緑地周辺住民の都市林公園に対する意見の吸収に努めて、その声を都市林公園構築に反映する。					
3) 運動史発行——25年間の保全運動の攻防の歴史を後世に伝え、今後の緑地保全運動の参考に資するため「鎌倉広町緑地はかくて守られた」を発行・販売。各新聞紙上に書評掲載され好評。					
4) 広報活動——「連合会ニュース」、ホームページ、で当会活動や広町緑地の情報の提供。					
5) 企画活動——「自然と環境が健康を育む」と題して、環境問題につき嶋矢氏の講演会を開催。					
6) 渉外活動——他団体との交流のため、NPOセンター利用登録団体との懇談会・交流会に参加。					
7) 定例役員会月1回開催					
8) 広町緑地の現場における保全・維持・管理活動への参画——、市民団体や市の公募市民が広町維持管理活動5つ会でボランティア活動をしている。当会はそれに参加・協力・支援している。					
①田んぼの会——5アールの田んぼを復元。田植え、稲刈りをしながら環境教育に資するとともに生態系の多様化を図っている。					
②畑の会——大根、人参、サツマイモなどの野菜を有機栽培し、環境教育に資する。					
③森の会——草刈、倒木の処理などの森の手入れ。					
④自然観察の会——連合会として「自然観察報告集」として観察記録を過去5冊発行してきた。現在は市公募の市民とともに生態系を守るため、生物の生育分布調査をし、観察と保護を続けている。					

⑤散策路の会——準備会が立ち上がって、散策路の整備に着手。正式に8月新懇談会で承認される。上記5つの会により、連絡会が開かれ、協働で収穫祭や谷戸の手入れを行っている。

【活動の成果】

- 1、長年の広町緑地の保全運動で全面保全を獲得した連合会はこの森の有意義な都市林公園構築のため広町緑地維持管理にかかわり、自立した運営組織をつくるべく周辺自治会として取り組んだ。
- 2、広町緑地の保全運動の運動史発刊。4年にわたって編纂し、発刊。多くの人々に読まれ感想寄せられ好評。

団体名	鎌倉の海を守る会	会員数	役員20名 (会員システムをとっていないため)	代表者	河合涼太さん
活動目的	腰越漁港海岸環境整備事業問題をきっかけに立ち上がった、海を愛する地元市民が発足。海岸美化を中心にかまぐらの自然を維持、保全、回復し、それを次世代へと継承することを目的としている。				

【活動の内容】

会報発行年3回（4月、7月、11月）。ホームページでも報告。

- ・ 4/12, 13 ジャック・ジョンソンコンサートにて活動紹介：横浜赤レンガ倉庫にて。コンサート会場に設置された、NPO活動を紹介するゾーンにブースを設けた。
- ・ 5/6 ビーチクリーンアップ：参加総数824名、回収したゴミ袋の数、可燃469袋、不燃359袋。ここ数年実施時の回収ゴミの量は減少傾向。
- ・ 5/25 浜の植物観察会：雨天のため中止
- ・ 6/21 第10回磯の自然観察会：雨天のため中止
- ・ 7/8～7/14 鎌倉駅地下道にて活動発表展示：
今回8回目。活動の様子の写真やパネル、海岸のゴミで制作したオブジェなどを展示。
- ・ 7月20日～8月末 ビーチパトロール：
海水浴期間中、ビーチクリーンを行いながら吸殻入れを配付、海浜利用者にタバコのポイ捨て防止とゴミ持ち帰りを呼び掛けた。
- ・ 9/23 ビーチクリーンアップ：
秋は国際ビーチクリーンアップキャンペーンの一環で、散乱ゴミの調査も合わせて行う。参加総数661名、回収したゴミ袋の数、可燃390袋、不燃359袋。もっとも数の多いゴミは、タバコの吸殻・フィルターで3809個。

【活動の成果】

ビーチクリーンアップ：

会の活動で最も長いものの一つ。1997年以来市内海岸全域で年2回行っている。春の回は市主催「クリーンアップかまぐら」海の部の実施主団体。

浜の植物を楽しむ会：

市内海岸でほとんど失われた浜の植物群落を、わずかに残る鎌倉高校前駅付近の海岸で観察。海と陸の接点に生育し潮風や飛砂を防ぐ役割を担っている海岸性植物の重要性を知り、分布状況を見て歩く。

磯の自然観察会：

鎌倉在住でも海に親しむ機会の少ない方や、小さいお子さんと磯を体験する方の参加が多く、鎌倉の海の豊かさや身近な自然の大切さ、保護の重要性を理解するきっかけになっている。毎年5、6月の大潮の週末に行く。

ビーチパトロール：

1998年から続く活動。毎年参加の社会人、学生もいる。土・日及び祭日を強化日とした。重点パトロール地区は、材木座、由比ガ浜、坂ノ下海岸。

団体名	NPO法人 鎌倉広町台峯の自然を守る会	会員数	350人	代表者	横川節子さん
活動目的	鎌倉市内のみどりの保全活動と広町緑地の里山復元				
【活動の内容】					
<p>1) 広町・台峯の四季のうつりかわりを、ハイキングを実施して多くの市民に体験していただく。</p> <p>2) 上記の目的で、3月末頃の桜の花、5月初めの桐の花と山藤の花、6月中旬のゲンジボタル、7月初めの半夏生群生をメインテーマにしてハイキングをし、ボランティア活動によって自然が生き生きとしてきていることを知って貰う。そのことから自発的にボランティア活動に参加を呼びかけた。</p> <p>3) 広町の里山復元作業には、ジャガイモの植え付け、田植えなど、幼稚園、保育園児、小学生、中学生とその保護者（若いお父さん、お母さん）が多数参加するようになった。</p> <p>4) 鎌倉市内外の幼・小・中学生に、世界遺産として鎌倉についてのおもいなどを作文に書いて貰う作文コンクールを実施している。（すでに5回行った）そしてこの文集を発行している。</p> <p>5) 作文とあわせ、里山復元の作業をしている風景の写生会を子供たちと一緒にこなった。</p>					
【活動の成果】					
土を媒介して自然をうやまう心をやしない、共に土にふれることから家族の話し合いが楽しくできて、あたたかい家庭づくりが育っている。					

団体名	NPO法人鎌倉広町の森市民協議会	会員数	1052人	代表者	家原義靖さん
活動目的	<p>広町緑地の都市林公園の実現に向け、市民の意見を喚起、集約して、当面の目標である実施計画（平成24年度の予定）に反映させる。</p> <p>広町緑地の保全・維持管理・利用に積極的に参画および支援し、市民主体の自立した運営組織の確立を目指す。</p>				
【活動の内容】					
<p>1. 活動方針（基本姿勢）</p> <p>現場活動の更なる強化（三現主義）</p> <p>現場活動要員の育成・強化</p> <p>会員とのコミュニケーションの充実と広報活動の強化</p> <p>組織・財政基盤の強化</p> <p>2. 活動内容</p> <p>(1) 市、広町緑地関連団体および市民の連携した「5つの会」を設立し、活動を推進</p> <p>樹林地の手入れ、植林など 「広町森の会」(2回/月)</p> <p>田んぼの復元 「広町田んぼの会」(4回/月)</p> <p>畑の復元 「広町畑の会」(4回/月)</p> <p>樹林地、谷戸の植物、水生生物、野鳥などの観察 「広町自然観察の会」(班毎に設定)</p> <p>緑地内の散策路の整備 「広町散策路の会」(2回/月)</p> <p>各会による共同作業：里山雑木林の復元、浄化池の維持管理、収穫祭の開催など</p> <p>(2) 市民協議会独自の活動</p> <p>緑地保全・維持管理のための「広町パトロール」(2回/週)</p> <p>活動リーダー・要員育成のための「広町から学ぶ会」(2回/月)</p> <p>「かまくら緑の探偵団」の運営と次世代の育成(定例会：1回/月)</p> <p>御所谷入口の「トイレの清掃・管理」(土・日曜、祭日)と維持管理活動の用具購入・管理</p> <p>各種イベントの開催(数回/年)と広町緑地のガイド(随時)</p> <p>「協議会ニュース(隔月)」、「広報誌：広町の風(季刊)」の発行、</p> <p>HP(http://www.hiromachinomori.or.jp)などによる広報活動</p> <p>「広町の森への道順と散策マップ」を西鎌倉駅と御所谷入口に設置</p> <p>小・中・高校の生徒を対象とする「環境教育(総合学習)」への協力(随時)</p> <p>広町緑地の未購入土地(含む、室ヶ谷エリア)の購入または借地のための「トラスト活動」</p>					

<p>「緑の羽根・緑の募金」活動 理事会の開催(1回/月)</p> <p>(3) 都市林公園の実施計画に向けて、市担当部門と緑地保全、管理体制などを話し合うため、市と広町緑地関連9団体で、広町緑地の管理運営に関する懇談会を開催</p> <p>【活動の成果】</p> <p>1. 保全・維持管理活動の活発化 4つの会の活動から5つの会の活動へ展開</p> <p>2. 会員のおよび一般市民の広町緑地の利用の増加 収穫祭(第3回)開催定着と広町を訪れる市民(各種団体を含む)の増加 かまくら緑の探偵団参加者の3倍増</p>

団体名	鎌倉ホテル保存会	会員数	15名	代表者	前山洋子さん
活動目的	環境美化を目的に環境指標生物のホタルの育成と保存の啓蒙				
<p>【活動の内容】</p> <p>事業</p> <p>1 水質検査 2 カワニナの放流 3 芹を植える 4 川辺の緑地の植樹(菖蒲の株分け)</p> <p>清掃</p> <p>1 除草 2 缶、ゴミ、ビニール袋、鉄屑、陶器の破片</p> <p>研究</p> <p>1 小・中学生によるホタルの研究発表 2 カワニナの飼育</p> <p>啓発活動</p> <p>1 自然の生態系を保全するよう行政への働きかけをおこなっている。</p> <p>【活動の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年ホタルを持っていってしまう人が多く、今年は激減してしまった。 ・ 上流のコルゲートの上はめづらしく出たが、コルゲートの下流はほとんど出ていない。 ・ 小袋谷川も少しは出た。ゴミはまだまだ捨ててある。 					

団体名	鎌倉ボランティアクラブ	会員数	739名	代表者	中山 芳信さん
活動目的	まちの美化活動・廃棄物の削減と地域との共生				
<p>1. まちの美化活動</p> <p>【活動の内容】</p> <p>三菱電機(株)鎌倉製作所、三菱電機インフォメーションシステム(株)湘南事業所及び関係会社(6社)*1の有志を募り、通勤に利用させていただいている工場周辺の道路を、隔週清掃する「通い道クリーン活動」を行っています。</p> <p>また、鎌倉市が共催する「クリーンアップ鎌倉2008」にも有志を募り参加しています。</p> <p>【活動の成果】</p> <p>(1) 定量的な成果</p> <p>①通い道クリーン活動: 2008年度 739名参加</p>					

・清掃範囲：工場周辺

②クリーンアップ鎌倉：2008年度 合計166名参加

(2) 環境への効果

タバコの吸殻、ゴミを拾う清掃活動により、工場周辺の美化維持及び公共河川の汚染防止が図れた。また、鎌倉市の美化活動にも貢献できた。

(3) その他の成果

クリーンかまくら条例の「事業者の責務」を実践することにより、従業員へのより一層の条例周知へとつながっている。

2. 廃棄物の削減

【活動の内容】

各社員、関連社員が読み終え不用となった本（DVD・CDを含む）を持ち寄り、会社グラウンドで開催されるサマーフェスティバルにおいて『古本まつり』と題して、社員、関係会社及び地域住民の方々の希望者に無償で提供しました。その際に募った寄付金は、(財)かながわみどりトラスト財団に寄付し、県の緑化活動に活用いただきました。

実施風景



【活動の成果】

(1) 定量的な成果

回収された古本冊数：約2,580冊、CD、DVD枚数：約160枚

募金額：18,707円

募金額全額を、神奈川県環境農政部緑政課を通じて、(財)かながわトラストみどり財団に寄付しました。

(2) 環境への効果

約2,580冊の古本が資源ごみ、約160枚のCD・DVDが廃プラスチックとして廃却されずリユースされ、焼却場までの輸送時、及び焼却される時にできるCO2の削減ができた。

また、募金活動を通して、地球の緑を守る活動の啓発と基金への貢献をすることができました。

(3) その他の成果

地域住民の皆様にも、参加を頂き、良好なコミュニケーションを図ることができた。これらの活動により「地域との共生」に貢献できました。

*1：関係会社

三菱プレジジョン（株）

菱電湘南エレクトロニクス（株）

三菱スペースソフトウェア（株）

菱栄テクニカ（株）

三菱電機特機システム（株）

三菱電機エンジニアリング（株）

団体名	NPOかまくら緑の会	会員数	55 名	代表者	高柳英磨さん
活動目的	緑化の推進、自然保護、美化清掃、環境教育				
<p>【活動の内容】</p> <p>◇若宮大路グリーンクリーン運動 平成6年度より、世界環境月間に当たる6月の第一日曜日に、若宮大路のクリーン運動を行っている。例年、若宮大路歩道や植栽帯の清掃・手入れ、花植えを行政や市内の環境団体、地域住民、市民と協力して行っている。平成20年度は6月1日に行った。</p> <p>◇若宮大路の花の点検と花植え 鎌倉駅前から若宮大路に続く県道鎌倉停車場線と、若宮大路の二の鳥居から下馬間の歩道の花壇やプランターに花を植え、手入れを行っている。停車場線は鎌倉駅東口街路樹愛護会の方々と協力し、年に3回ほど花植えの補植を行っている。活動日は第2木曜日と第3土曜日。</p> <p>◇植樹 市の木ヤマザクラを市内各所に植樹している。20年度はかながわトラストみどり財団より助成を頂き、覚園寺、市体育館前、国大附属中学校などに植樹を行った。また、大船フラワーセンターより玉縄桜の苗木を頂き、若宮大路に植えた。</p> <p>◇講演会 市内在住で、植物や自然を歌に詠まれ、桜についても詳しい歌人の尾崎左永子先生をお招きして講演会をおこなった。3月17日</p> <p>◇サクラの巨木調査 2年前から市内のサクラの調査を行っているが、途中経過を20年度に発足した「かまくら桜の会」会員の神宮司氏が報告した。3月17日</p> <p>◇視察・見学 鎌倉市内をはじめ、他の市町村の緑や自然環境の様子を知ること、また会員同士の親睦を深めるために行っている。 20年度はフラワーセンター、十二所果樹園、箱根湿性花園、鎌倉市内のサクラなどを見学した。</p> <p>【活動の成果】 クリーン運動や講演会には大勢の方の参加を頂き、市民の環境への関心の深さを感じている。また、若宮大路や停車場線の花壇の花は市民だけでなく、観光客にも喜ばれており、「潤いのある町づくり」を目指す当会の活動にうれしいお声も頂く。 そして鎌倉の世界遺産登録は市民の願いであるが、コアゾーンである若宮大路での活動、講演会などの開催を通じ、世界遺産登録の重要性を考えていただけたことと思う。 活動日は年間40日以上。</p>					

団体名	NPO法人 鎌倉リサイクル推進 会議	会員数	135名	代表者	木村陽子さん
活動目的	ごみの発生抑制、減量や資源化の市民意識の啓発、廃棄物の再利用促進活動を推進				
<p>【活動の内容】</p> <p>〔展示部会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 常設展示 (通年) ◆ 秋のリサイクル作品展 (10月～11月) ◆ クリスマス飾りの展示 (12月) ◆ 鎌倉駅地下道ギャラリー展示 (7月・2月) <p>〔情報部会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ かわら版 (行事日程とその内容案内) 毎月発行 ◆ 会報「ラ・ラ・ラ」(会の活動紹介) 18号 1回発行 ◆ 情報シート (リサイクル実践に役立つ情報) 4回発行 ◆ ホームページの更新 (12回) ◆ 研修：環境展(6月) エコプロダクツ(12月) ◆ 講師：なぎさ会「3R推進のためのごみ勉強会」(3月) ◆ 回収拠点：ペットボトルキャップのリサイクル 192.1 kg <p>〔学習部会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ごみ発生抑制、減量・資源化の促進を目的に学習会を3回企画・実施 <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休み鎌倉市ごみ処理施設見学会 (7月) 2. 水道水についての学習会 (1月) 3. ゼロ・ウエストかまくら 鎌倉市のごみ処理現状と課題 <p>〔イベント部会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ リサイクルマーケット (4回/5・7・9・11月/毎回約60店舗) ◆ こどもリサイクルマーケット同時開催 (7月) ◆ 古着・古本無料掘出し市 (1回/3月) <p>〔生活の知恵教室〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 全214教室を開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ減量教室 (10回) ・修理修繕教室 (4回) ・衣類リフォーム教室 (26回) ・リサイクル工作教室 (24回) ・裂き織り、布ぞうりづくりその他教室 (58回) ・廃食油石けん教室 (5回) ・リサイクル手芸教室 (65回) ・衣類お直し教室 (22回) <p>(注：活動内容は鎌倉市からの受託事業と自主事業を合計したものです。)</p> <p>【活動の成果】</p> <p>事業実績数は受託事業 (177回・2,349人)、自主事業 (90回・3,212人) 合わせて267回の事業を実施し、参加人数は延べ5,561人でした。</p> <p>【特記事項：不用品登録協働事業 (愛称 リユースネットかまくら)】</p> <p>本会とNPO法人鎌倉シチズンネット・鎌倉市の三者による協働事業。市民の「譲ります」「譲ってください」情報をインターネットに公開。その橋渡しの活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録申し込み→730件 ・応募→651件 ・成立→265件 					

団体名	キープ鎌倉クリーン推進会議(略称 KKC)	会員数	25名	代表者	高田晶子さん
活動目的	まち中の散乱ごみと落書きゼロをめざした美しいまちづくりと人づくり				
【活動の内容】					
1 まち美化／まちづくり					
<input checked="" type="checkbox"/> かながわ海岸美化財団団体交流会 (3/1) [参加] <input checked="" type="checkbox"/> NPOセンター鎌倉利用交流会 (NPOセンター鎌倉主催に参加) (7/19)・(1/24) <input checked="" type="checkbox"/> かわごえ環境フォーラム「市民と行政との協働～鎌倉の事例を基に」(2/24) [講演]					
1-1 ポイ捨て防止／散乱ごみ清掃					
清掃活動			報告／提言等		
<input checked="" type="checkbox"/> 若宮大路(正月三が日)(自主) <input checked="" type="checkbox"/> 定例会 100 回記念・若宮大路草取り(4/4)(自主) <input checked="" type="checkbox"/> 若宮大路(GW3 日間)(自主)			<input checked="" type="checkbox"/> 散乱ごみの量・ごみ箱の状況・観光客の様子等、現場の報告。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題の抽出と次年度に向けた改善策の提案。(関連行政担当窓口等)		
防止活動					
<input checked="" type="checkbox"/> 花火大会(8/11)(協働) <input checked="" type="checkbox"/> 市役所から駅まで「通い道クリーン運動」(毎月、定例会終了後)(自主)			<input checked="" type="checkbox"/> 報告と次年度に向けた改善策の提案。(関連行政担当窓口等)		
1-2 落書き防止／落書き消し					
消去活動			報告／提言等		
<input checked="" type="checkbox"/> 国道 134 号線海岸擁壁・沿線チェック(通年)(自主) <input checked="" type="checkbox"/> 植木、関谷インター周辺チェック(通年)(自主) <input checked="" type="checkbox"/> 大船駅周辺チェック(通年)(自主)			<input checked="" type="checkbox"/> 消去前後の写真提出による報告。 <input checked="" type="checkbox"/> 落書きの性状と課題抽出、現場から読み解く対応策の提案。(関連行政窓口)		
防止活動					
<input checked="" type="checkbox"/> 市内パトロール(通年)(自主) <input checked="" type="checkbox"/> 市民活動の日フェスティバルパネル展示「若宮大路落書き経年変化(5/20-25)」[参加] <input checked="" type="checkbox"/> H21 年度市提案「落書きのないまちづくり」協働事業決定 <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業用の落書き記録シート作成			<input checked="" type="checkbox"/> 施設管理者へ落書き消去の依頼 担当課経由(大船駅ホーム他)		
1-3 雑草取り／緑化活動					
<input checked="" type="checkbox"/> 「クリーンアップ鎌倉」若宮大路の雑草取り(春秋)[参加]					

1-4 市民活動の日フェスティバル 10周年イベント

- 「飛び砂を海岸に戻そう」三菱東京UFJ銀行員、藤沢土木、KKC など

【活動の成果】

- 9月議会：路上喫煙防止条例制定（KKC会員も事前のパブリックコメント参加。「禁止」提案が「防止」になったのは残念。思いの外スピーディーに成立したのは大いに評価できる。
- 散乱ごみ、落書き共に、目立つものは無く、量（数）も数年前に比して格段に減少している。

【特記事項】

- 「鎌倉市路上喫煙防止条例制定(過料付き)」
- イベント「飛び砂を海岸に戻そう」滑川河口の飛び砂を由比ガ浜海岸に戻す人海戦術は、若い銀行員の参加で効率アップ、大成功であった。
- 大船駅東口ごみ容器がバスターミナル線路際に移された（9月）
- 神奈川県「建設ともしび運動」助成（スクレイパー、草刈り鎌、ゴム手袋）
- 4月から鎌倉市指定区域内路上喫煙全面禁止。JRもホームでの喫煙全面禁止。

【今後の課題】

- 神出鬼没、何度でも反復的に発生する落書き常習者への対策。
- 次年度の市との協働事業を通じて、藤沢土木事務所等、行政各課を始め、企業や自治町内会との積極的な交流・協力体制による構築を期待。

第8回ゴールデンウィーク若宮大路清掃集計表（2008/5/3～5/5） [収集袋20ㇿ]

項目 累計	参加 人数	可燃ごみ	カン・ビン/ ペットボトル	清掃時間	清掃場所
5/3～ 5/5	17人	3袋	3/1袋	13時～14時	二の鳥居～由比ガ浜海岸広場 鎌倉駅東口広場と西口駅前

第60回花火大会（KKCボランティア参加9回目）

ごみステーション「燃やすごみ」と「資源ごみ」集計表（袋900 900×1000）

ごみステーション	スタッフ人数	カン	ペットボトル	ビン	燃やすごみ台車（%）
鎌倉体育館前	12	10	9	3	80
京急第2車庫	11	12	9	6	110
消防署前	11	10	10	1	110
海岸	11	6	4	1	30
海浜公園	14	2.5	1.5	0.2	30
合 計	59人	40.5袋	33.5袋	11.2 袋	—

第9回正月三が日若宮大路清掃集計表（2009/1/1～1/3） [収集袋20ㇿ]

項目 累計	参加 人数	可燃ごみ	カン・ビン/ ペットボトル	清掃時間	清掃場所
1/1～ 1/3	22人	15袋	8/3袋	13時～14時	一の鳥居～三の鳥居と鎌倉駅 東口駅前・広場等

団体名	湘南・省エネネットワーク	会員数	24名	代表者	前島 仁さん
活動目的	地球温暖化防止対策の普及啓発、環境教育等の地域での省エネルギー推進				
【活動の内容】					
1. 広報事業：イベント					
イベント					
「かまくら市民活動の日フェスティバル」(5月20～25日、鎌倉生涯学習センター地下ギャラリー)に出展。展示内容は団体活動内容をパネルや配布物などで紹介、市民活動団体との交流を深めた。					
2. 教育事業					
環境教育：鎌倉市の小学校長会や関係先へ出前授業について紹介し、市内5校、市外1校で出前授業を実施した。					
環境市民大学：第4回「家庭での省エネ実践講座」を10月19日(日)に鎌倉生涯学習センターで開催した。					
今泉台町内会で神奈川県環境計画課共催の「家庭の省エネ講座」、「環境家計簿エコポの紹介」を11月14日(金)に行った。					
3. 普及事業					
省エネナビの普及・地域の知人などへ呼びかけ、省エネナビを1台設置した。					
注)その時々エネルギー消費量を金額で知らせるとともに、利用者自身が決めた省エネルギー目標を超えると通知し、利用者自身がどのように省エネをするか判断させる機器。					
省エネ優良販売店：調査結果から地域別のランキングとして総合評価を実施した。					
4. 調査・研究事業					
家庭の省エネ：省エネデータ収集の進め方を検討した結果、神奈川県環境家計簿「エコボシステム」を検討した。					
5. その他					
(1)鎌倉市の要請による委員参画					
かまくら環境保全推進会議委員かつエコライフ実践部会メンバーとして参加					
鎌倉市立第二中学校の改築検討に際して、市教育委員会の要請で検討委員として参画した。					
(2)創立10周年記念事業：活動記念誌を発刊					
活動概要、10年前との比較、未来のシナリオなどを掲載した。なお、10年間で会員が実施した成果を記した。また10年後の未来へのシナリオは、会員が実施したい内容(ドリームプラン)を記した。					
当団体の特徴・強み、今後の役割・目指す方向などについても記述した。					